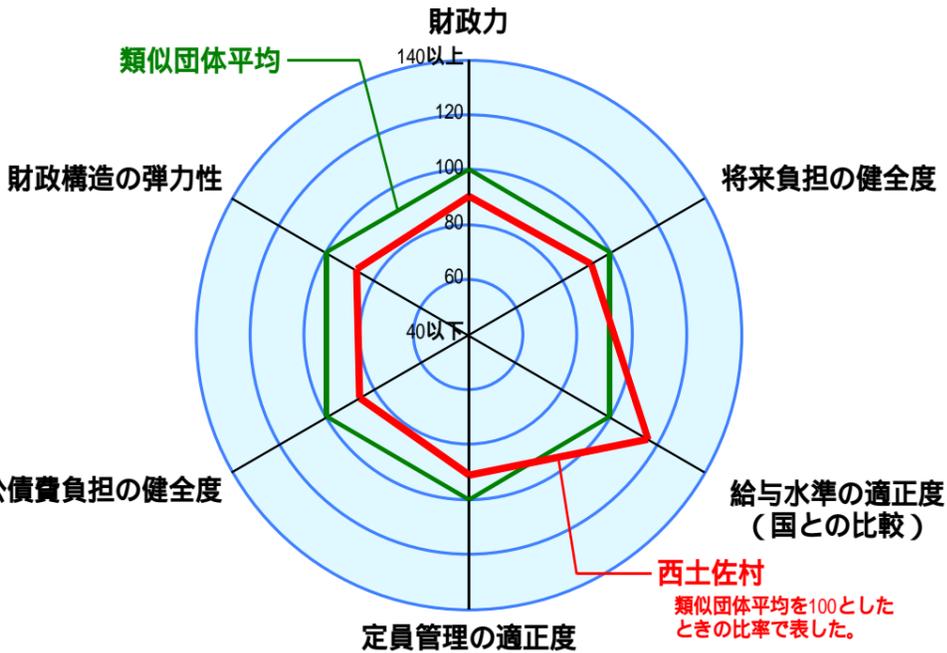


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

高知県 西土佐村

人口	3,745人(H17.3.31現在)
面積	248.00 k m ²
歳入総額	3,570,570千円
歳出総額	3,488,381千円
実質収支	-7,903千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

【財政力指数】
 ・ここ3年間でわずかではあるが連続して伸びを見せているものの、人口の減少や全国平均を上回る高齢化（16年度末36.7%）に加え、村内に中心となる産業がないこと等により財政基盤が弱く、類似団体平均をかなり下回っている。今後は四万十市（平成17年4月10日中村市と合併）として財政基盤の強化に努める。

【経常収支比率】
 ・98.3%と類似団体平均をかなり上回っているが、これは平成17年4月10日に合併し、平成16年度の決算が打切決算となり、国庫補助金等の特定財源が未収となっていることが大きな要因である。平成14年度は89.4%、平成15年度は88.9%であった。

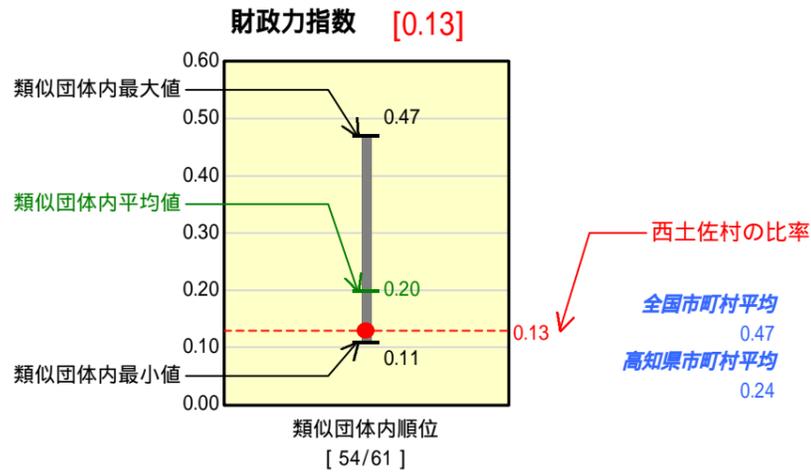
【起債制限比率】
 ・普通建設事業費に係る起債の償還等に伴い上昇し、類似団体平均を上回っている。

【人口1人あたり地方債残高】
 ・類似団体平均を上回っている。主な要因としては平成13年から平成14年にかけて実施した、し尿処理施設整備事業（総事業費8億円、うち起債7億円）等がある。

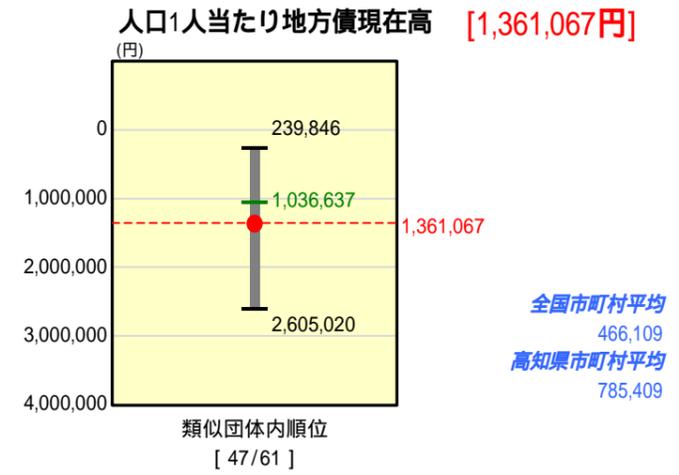
【ラスパイレス指数】
 ・平成17年度から職員の給与カット（5%）の実施により類似団体平均を大きく下回っている。

【人口1,000人あたり職員数】
 ・前回の行財政改革計画（計画期間：平成13年度～17年度）において、10人（8%）の削減を行ってきたものの、人口は少ない上に面積は広いので、人口当たり職員数を類似団体と比較すると突出して多い。今後は新市で削減に努める。

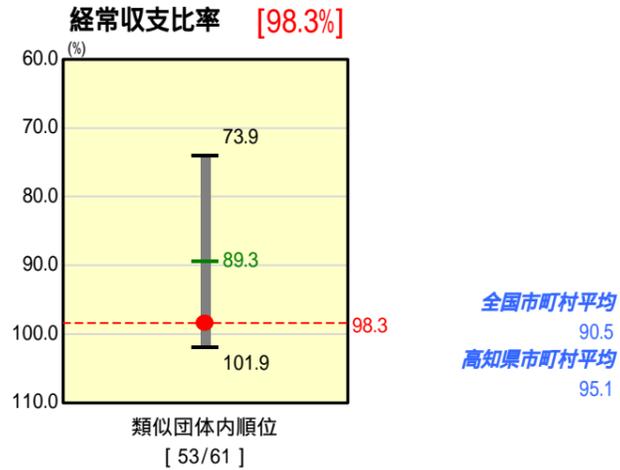
財政力



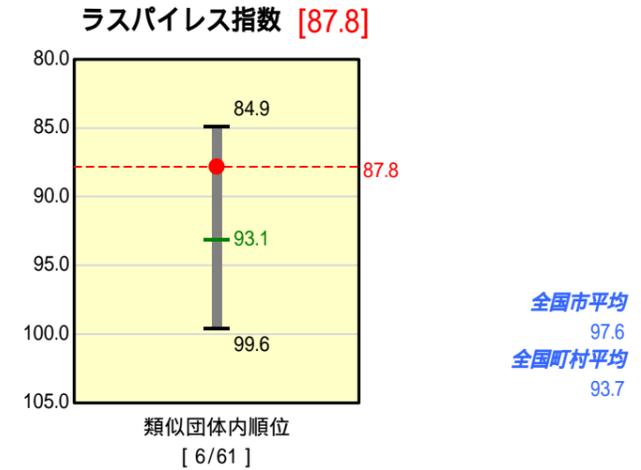
将来負担の健全度



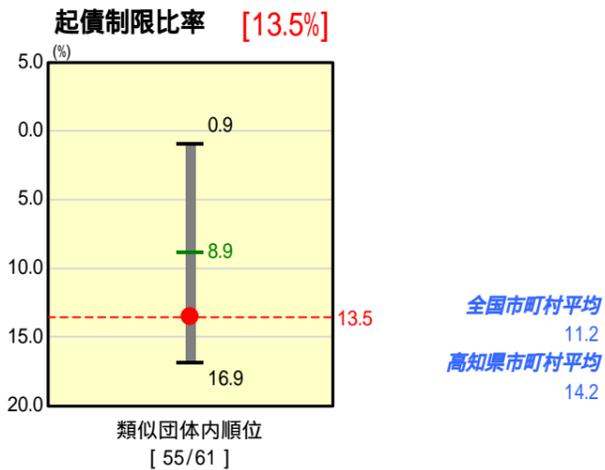
財政構造の弾力性



給与水準の適正度（国との比較）



公債費負担の健全度



定員管理の適正度

